

教育目標 立志鍛練の精神のもと、次代を担う知・徳・体の調和のとれた人間の育成、学力の向上をめざす教育を積極的に推進し、地域の信頼、期待、ニーズに応えられる学校を構築する。						
重点目標	評価項目	計画 (PLAN)	実践 (DO)	評価 (CHECK)		改善 (ACTION)
		重点努力目標	方策・手立て	学校自己評価	学校関係者による評価	* 結果の考察・改善
知育の進	基礎・基本の定着と学力向上 (高橋誠)	① 生徒の主体的な学習活動をサポートする学習指導の充実 ② 生徒の夢を実現するための魅力ある教育課程の編成 ③ 家庭学習の充実	① 基礎学力の定着 (個別指導や早期対応の充実) ・ 授業力の向上 (主体的対話的な深い学び) ・ ICT機器の積極的活用 ② 新教育課程における観点別評価の検討、作成 ・ 教科等横断的な視点からの社会に開かれた教育課程の検討 ③ Classiを活用した自宅学習指導	2.8	2.0	・ 2学期の研究授業から指導案と参観シートを作成し、事後研修会の活用や他教科の先生方の意見を取り入れるなど授業研修を充実させた。 ・ ICT機器を用いた授業が少しずつ増えているが、来年度からの学習者用端末整備 (一人一台) に向けて、職員研修の機会を設ける。 ・ 新課程に向けて、観点別評価を取り入れたシラバスの検討、作成を各教科全員で行っていく。 ・ 年々自宅学習時間が減っているため、担任による Classi を活用した自宅学習指導をきめ細かに行う必要がある。
	進路指導の充実 (有村)	① 基礎学力定着と学力向上 ② キャリア教育に基づいた進路指導 ③ 入試改革対応と進路意識の啓発	① 6月難関大対策講演会、7,11月小論文対策講演会実施 ・ R3春季英数講習会実施 (2年 R4も3月実施予定) ・ 学力検討会、志望校検討会 (3回全て実施予定) ・ 進路講演会 (3年:9月実施) ・ 2年生講座制課外実施 (夏季・冬季) ② 1年生企業体験学習 (トヨタ)、職業講話、地域巡検 ・ 2年大学出前講座実施 (6,11月) ・ 1年校外進学ガイダンス実施 (12月) ・ オープンキャンパス中止等によるオンライン参加 ③ 全職員による推薦入試指導の推進 (志望理由書、小論文、口頭試問、面接討論指導) ・ 保護者向け受験説明会および進路講演会実施	3.0	3.0	・ 新入試やコロナの影響に伴い、個々の進路希望の多様化が進み、進路行事や進路学習においてオンラインやスマートフォン利用等の工夫を取り入れてほぼ実施できた。 ・ 学力向上のためにも新入試に対応した授業展開の工夫改善とともに次年度に向けてオンラインやICTを活用した授業改革を教務や各教科と連携していく必要がある。 ・ 地域や地元の小中学校との連携を密にし、キャリア教育を深めながら、本校の取り組み等の情報発信や意見交換に力を入れて本校入学希望者の増加を図る必要がある。 ・ 探究活動や課題研究、大学や地域主催のセミナー等への積極的活動を促してコミュニケーション力やプレゼン力の向上、さらに自ら学ぶ生徒の育成を目指して、各々の職業や進路および受験意識を高めていく必要がある。
徳育の推進	規範意識の向上と生徒指導 (渡会)	① 基本的生活習慣の確立 ② 社会的規範意識の高揚 ③ 主体的活動の促進	① 「挨拶」「時間厳守」指導のために朝の立ち番 ② 交通安全教室、薬物乱用防止教室、情報モラル教室の実施 ・ マナー向上のため列車指導、交通立番指導を実施 ③ 生徒の主体的活動を促進するため生徒会執行部の組織編成改革 ・ 学校行事における生徒主体の企画・運営 (秋桜祭、百周年記念事業、クラスマッチなど)	3.5	2.8	① 遅刻する生徒が固定化されているので、学年と連携して遅刻しない指導が必要である。 ② 交通ルール、マナーの面での指導が必要である。相手の立場にならざる行動できる生徒の育成が必要である。交通指導などは組織的に取り組めるよう工夫が必要である。 ③ 生徒会役員だけでなく、全校生徒から協力してくれるボランティアを募ったり、各クラスの役員などと協力して実施できるように促していきたい。
	道徳・人権教育の推進 (副校長)	① 在り方・生き方の教育の推進 ② 命を大切に教育の推進 ③ 人権教育の推進・意識の高揚	① 在り方・生き方に関する講演会の実施 ② 交通安全教室、薬物乱用防止教室、WYSH学習の開催。(生指部・保健部) ③ 各学期の人権教育 (生徒向け) と職員研修の実施	3.0	2.8	① 森永顕彰会講演会 (本年度は百周年記念講演会) を含めた在り方・生き方講演会、職業講話等を実施し、生徒の進路意識の高揚に努めた。 ② WYSH学習や人権教育では、養護教諭や体育科教員、外部講師による講義 (講演) を実施した。 ③ 人権学習や学年集会などいろいろな場面で、人との関わり方や命の大切さを訴え人権意識の高揚に努めた。
体育の推進	心身の健康と鍛練 (副校長)	① 心身の鍛練の推進 ② 健康・防災教育の充実 ③ 教育相談室体制の充実	① 保健委員会 (生徒会) の新型コロナ感染症拡大防止を中心とした活動促進、保健便り・ポスター等による情報提供 ② 健康講話の実施や防災関係の職員研修の実施 ③ 教育相談情報委員会 (毎週実施) の機能充実と関係機関との連携促進	3.0	3.0	① 保健委員会を通じて感染症拡大防止を重点的にしながら、心身の健康や生活習慣について繰り返し呼びかけ、生徒の意識の向上につなげた。 ② 避難訓練にみやぎシェイクアウトを組み合わせて、防災教育を行った。 ③ 教育相談部や関係職員との早期に連携を図り、組織的に対応できた。
	部活動の活性化 (渡会)	① 部活動の競技力向上 ② 部活動加入率の向上 ③ 文武両道の実践	① 部顧問会の実施・外部指導者との連携 ② 部活動紹介の充実と部活動のPR活動 ③ 部活動生集会の実施 ・ 活動時間の厳守	3.0	2.7	① 強化指定となっている部活動 (バスケ、駅伝、ウエイト部) が全国で活躍できるレベルになっている。今後は、その他の部活動の競技力向上のための支援と外部指導者との連携が十分ではなかったため、今後の具体的な取組を考えていかなければならない。 ② コロナ禍ではあったが、生徒会の工夫した実施で充実した部活動紹介であった。ホームページやSNSを利用したPR活動を促進していく必要がある。 ③ 部活動と学習の両立を考えて活動時間の徹底と教務部との連携で家庭学習の充実を図らなければならない。